

梅木 加津子 議員



一括質問方式

- ① 土地開発公社と阿蔵高山 残土処理場建設事業
- ② 農家及び地域業者への支援と道の駅構想
- ③ 肱川地域の病院確保
- ④ 介護保険制度
- ⑤ 地域公共交通
- ⑥ 子育て支援
- ⑦ 市職員の待遇改善

農家及び地域業者への支援と道の駅構想について

問 市長が選挙の公約で掲げた、八幡浜から大洲市に至る自動車道

路に本市が道の駅をつくる構想については、農協の愛たい菜やあさもやに影響が出るのではないかと心配されている。地域の業者の皆さんやこうした団体との協議をしているのか。具体的構想をご説明いただきたい。また、財源をどのようにしていくのか。

答 その場所や規模、機能等については、今後協議検討していくこととなりますが、各事業者の皆様方、国、県等の関係機関との調整、近隣市町との連携も図っていく必要があると考えています。

また、財源についても、施設の機能に合わせた様々な交付金や補助金等の組み合わせを検討していきたいと考えています。なお、12月1日付の職員人事異動において、総合政策部企画政策課内に道の駅構想推進担当を配置したところであり、今後関係各部署とも連携を密にしながら、計画的に進めていきます。

地域公共交通について

問 長浜地域では、地域公共交通を求める要望書が2度にわたって

出されている。11月に出された要望は、長浜地域内を循環する小型自動車の運行で200人を超える署名が出された。特に長浜では旧市町村のような公共交通がない。こうした具体的要望をぜひ実現していくべきと思うが、どうか。

答 先月、長浜町の公共交通を考える会の皆様方から、地域内循環バスの導入を求める要望書が提出されました。どのような交通体系においても、利用者の見込み、運行などの方法を検討していく必要があります。あつたら便利という考え方は、持続可能な交通体系の構築はできませんので、皆様にご利用いただくということを前提とし、一定のルールづくりを行いながら、長浜地域についても、本年策定する公共交通網形成計画に基づき、公共交通体系の整備を図っていききたいと考えています。

子育て支援について

問 空き教室待ちではいつまでもできないのではとの声もあるが、3歳児保育は、その後どのように検

討されたのか。

答 市立幼稚園における3歳児保育は、現在、河辺幼稚園、大洲幼稚園で実施しています。平成30年度における取り組みとしては、近年新たに実施した事業は現状のまま実施し、事業の検証により成果、課題を明確にして、認定こども園への移行の検討につなげていくこと、次に、保育時間の延長は、大洲幼稚園及び喜多幼稚園において、試行的に午後3時までの延長を実施すること、また肱川幼稚園については、現在バス待ちの園児を預かっていることから、他の園児も同様に午後3時まで預かりを行うこととしました。

3歳児保育の拡充など子育て支援については、第2期大洲市子ども子育て支援計画の中に位置づけしていきたいと考えています。

